

# 九州造形短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 九州造形短期大学の概要

設置者	学校法人 中村産業学園
理事長	山下 寛彦
学 長	谷口 治達
A L O	飯田 一博
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	福岡県福岡市東区松香台2-3-2

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
美術科		20
デザイン科		170
写真科		40
	合計	230

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

九州造形短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年6月30日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

理事長のリーダーシップのもと、これまで以上に建学の精神・教育理念の推進を図る取り組みがなされている。また、「行動理念等構築に伴うプロジェクトチーム」を発足させ（平成17年）、教育目標の共有への取り組みを行っている。

教育課程は科目選択の幅は広く、クラス規模も少人数である。資格取得については九州産業大学との単位互換により可能で、多様なニーズに対応できており、教育内容の評価はおおむね良とされる。

校舎、実習室の教育環境は良好であり、教育の実施体制は適正と判断する。

授業改善や資格取得支援体制は整っており、教育目標の達成へ向けての努力がなされている。

入学に関する支援は問題ないと思われる。学習支援では芸術系短期大学という点から、個々の学生の能力を理解し、個性をのばすことが重要であると思われ、この点について、全教職員が組織的に行っていることがうかがわれる。学生生活支援はおおむね整備されている。メンタルケア・カウンセリングの体制、奨学金（特待生など）は特に優れている。

研究活動、またそのための条件整備ともおおむね良好とみる。

建学の精神である「産学一如」に基づいて、社会活動の位置づけを明確に示し、芸術系短期大学の特性でもある「ものづくり」を通して社会的活動（地域貢献）が推進されている。また、社会人入学制度や科目等履修生制度があり、社会人の受け入れ体制が整備されている。

理事会、評議員会はおおむね適正に運営されている。教授会、委員会ともに組織として整っている。

財務についても、おおむね適正といえる。

自己点検・評価活動の実施体制は確立していると考えられる。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「行動理念等構築に伴うプロジェクトチーム」を発足させ（平成17年）、教育目標の共有への取組みを行っている。

評価領域 学生支援

AO入試入学予定者へのスクーリングが実施されている。  
メンタルケア・カウンセリング体制が整備されている。

評価領域 社会的活動

社会人向けに造形芸術センターで21に及ぶ公開講座を開講している。  
在学する留学生に対しては、九州産業大学の国際交流センターと連携を図り、日本の伝統文化、風土に触れる機会を多く得られるように努力している。

評価領域 管理運営

昨年度就任した新理事長の強いリーダーシップの下、法人全体の改革が行われている。  
短期大学にあっても平成19年度から学科の改組が計画されている。

評価領域 財務

学内掲示、広報誌、ウェブサイトによって財務情報の公開が行われている。

### (2) 向上・充実のための課題

評価領域 学生支援

オフィス・アワーとして教員が在席する曜日、時間を学生に明示することが望まれる。  
就職委員会の組織化、就職資料室の整備、社会人入学生に対する対応の検討が望まれる。

評価領域 社会的活動

ボランティア体験、ボランティア体験 が単位認定されているが、履修ガイドに掲載するとともに積極的な周知が望まれる。

評価領域 管理運営

委員会の中には開催頻度の著しく少ないものがみられるので、委員会の必要性、組織的位置づけなどを再検討し、より効果的な運営をすることが望まれる。

事務運営に関する研修は行われているが、短期大学職員として必要な知識、能力に関するスタッフ・ディベロップメント（SD）研修の実施が望まれる。

評価領域 財務

法人全体では財務体質は健全であるが、短期大学では支出超過となっており、法人全体の財務への依存度が高くなりすぎている。平成19年度から学科改組を計画しているが、改組の効果が十分に発揮され、学生数の増加につながるような施策と改革が求められる。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は「産学一如」、教育理念は「造形の伝統の継承」、「産業社会の有力な人材育成」であり、ともに明確にされている。

新理事長のもと、これまで以上に建学の精神、教育理念の推進を図る取組みとして「行動理念等構築に伴うプロジェクトチーム」を発足させ（平成17年）、教育目標の共有への取組みを行っている。

3学科それぞれの教育目標が示されており、大学案内、学生便覧作成時に点検されている。

### 評価領域 教育の内容

芸術系短期大学の教育課程として、専任教員、専門科目とも体系的に設置、編成されている。

科目選択の幅は広く、クラス規模も少人数であり、資格取得については九州産業大学との単位互換により可能であり、多様なニーズに対応出来ている。

履修ガイド、シラバスともにおおむね良好であり、明示されていると評価する。

授業評価は定期的に行われており、報告書にまとめられている。教育懇談会も実施され、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会も設置されており、努力はみられると判断する。

#### 評価領域 教育の実施体制

教員組織などは整備されていると評価できる。

短期大学設置基準を充たしており、校舎、実習室の広さ、環境も充分であると評価できる。

図書館は、広さ、座席数、書籍購入予算など、若干少ないように思われるが、九州産業大学の図書館と外部データベースも利用可能であることから、整備されていると判断する。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法は、各学科とも適切に行われている。学生による授業評価アンケートも適切に実施され、その結果は各教員が把握している。留年については、若干多いと思われる学科があるが、退学、休学については全体的に妥当な範囲である。

資格については13講座からなる「情報処理資格取得講座」や「色彩検定」、「CG(コンピュータグラフィックス)検定」など数多くの資格取得を推奨している。編入学希望者には個別に指導を行っており、九州産業大学などへの編入学実績がある。

専門職はデザイナーやカメラマンなどであり、就職希望者の約半数の学生が専門職に就職している。就職実績のある企業への企業訪問を毎年実施し報告書にまとめている。

就職先および進学先からの卒業生評価の実施、充実が望まれる。

卒業生は、同窓会年会報「薫風」や個展、グループ展を通じて交流があり、強い連携がみられる。

#### 評価領域 学生支援

平成19年度入学案内より明示されるようになったが、建学の精神、望ましい学生像の明示が必要である。アドミッション・オフィス(AO)入学予定者へのスクーリングが実施され、入学次オリエンテーションも適切に実施されている。入試選抜も公正かつ正確に実施されているが、入学説明会・見学会は少ない。

2年次オリエンテーションを実施している。授業についていけない学生に対して個別指導をしている。クラス担任、オフィス・アワーも実施している。

学生委員会を中心に全教職員が学生生活支援体制を確立している。メンタルケア・カウンセリング体制は良好である。奨学金(特待生など)制度が充実している。

学生委員会と卒業研究担当教員が進路指導を行っている。就職委員会を組織し、就職資料室を配置することで、さらに就職指導が充実すると思われる。

留学生の支援は日常的に全教職員が行っているが、社会人を組織的に支援する体制はない。

#### 評価領域 研究

芸術系短期大学の特徴として、教員の実社会における創作デザイン活動や個展などの作品発表も多い。さらに研究費、研究室、研究日とも条件はおおむね整備されている。

#### 評価領域 社会的活動

建学の精神である「産学一如」に基づいて、社会活動の位置づけを明確に示し、芸術系短期大学の特性である「ものづくり」を通して学生の社会的活動（地域貢献）が積極的に推進されている。社会人入学制度や科目等履修生制度があり、社会人の受け入れ体制が整備されている。社会人向けの公開講座は、絵画、陶芸、写真など21講座に及び、芸術系短期大学の特色を出している。地域社会との交流活動も活発で、平成17年度は芦屋町主催の「砂浜の美術展」や全国都市緑化フェアなどへ参画した。

学生は、学科の特性である芸術を通じて地域と交流している。ボランティア体験、ボランティア体験は単位認定科目となっており、個々の作品や共同制作の成果を社会に発表することで地域社会に貢献している。

留学生の派遣制度はないが、留学生の受け入れについては実績がある。海外教育機関との密接な双方向的交流は実施されていない。教員の国内・海外留学制度はあるが活発には制度が活用されていない状況にある。

#### 評価領域 管理運営

寄附行為に基づいて理事会、評議員会が定期的開催されている。また、理事長のリーダーシップのもと、理事会、評議員会で経営的な判断が適切に行われており、学校法人の運営体制は確立できている。

9つの委員会が設置されているが、ほとんど開催されていない委員会がある。教授会の諮問機関などとして明確な位置づけを行い、活発な委員会運営を行うことが望まれる。SD活動として、事務能力向上と学校業務を遂行する能力向上の両面があるが、事務能力向上のための研修会が法人全職員を対象として実施されている。

教職員の就業規則、給与規程などが整備され、諸規程に基づいた人事管理が行われている。

#### 評価領域 財務

事業計画に基づいて事業予算が決定され、予算の執行も適切に行われている。

学校法人では委員会を設置して短・中期教育研究計画を策定しているが、短期大学として独自の中・長期計画が明確に示されていない。



学内掲示、広報誌、ウェブサイトによって財務情報の公開が行われている。  
法人全体としては財務状況に問題はないが、短期大学については支出超過となっている。  
短期大学の教育研究経費比率は、高い水準を維持できている。  
短期大学として必要な施設設備は整備されている。また、管理の運用については、短期大学単独ではないが法人全体として規程を定めており、諸規程に沿って問題なく管理がなされている。  
年1回の防火訓練を実施し、災害対策として設備面でも対応がなされている。ただし、学生を含めた防犯・避難訓練が行われていないので、全学的な防災・防犯対策の充実に向けた対応を実施してほしい。  
コンピュータウイルス対策については、現状でも対策はとられているが、さらなる改善が予定されている。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価委員会を設置し、下部組織として、自己点検実施委員会を設け、活動を開始している。